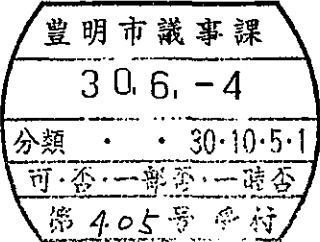


豊明市議会議員 殿

研修会・講演会等参加報告書

議員名 後 藤 学

平成30年度豊明市議会政務活動費にて下記の研修に参加しましたので報告します。

日 付	研修先	研修項目及び成果等
平成30年4月21日	全国町村会館（東京）	地方議会議員フォーラム 2018 「議会改革の第二ステージ ～議会評価を考える～」 ※詳細別紙のとおり  <p>豊明市議事課 30.6.-4 分類 . . 30-10-5-1 可・否・一部否・一時否 第405号 添付</p>

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

地方議会議員フォーラム 2018 参加報告書

後 藤 学

1. 日時：2018年4月21日（土）13：00～17：00
2. 会場：全国町村会館 2階ホール
3. プログラム

基調講演・問題提起・事例紹介（3市議会）・パネル討論

4. 内容(要旨)

* 基調講演（早稲田大学名誉教授・マニフェスト研究所顧問 北川 正恭氏）

地方分権は、1995年に国会で全会一致で決議されたわが国の方針である。当時、裁判員制度、三公社五現業の廃止、小選挙区制導入などが行われたが、議会の役割も益々重要になった。監視・追認から政策立案への変化が求められる。そのために、事務局体制の強化・充実が必要である。

* 問題提起（山梨学院大学法学部教授 江藤 俊昭氏）

自治の根幹は議会にある。住民の代表たる議員が議論を通じて政策をつくっていき、その成果を評価することが大切。先駆的な議会では、1年ごとに議会として評価し、結果を住民に公開することを基本条例で定め、実践している。その動向を学び、チーム議会として事務局と一体で「最初の一步」をはじめよう。

* 事例紹介

・会津若松市議会

議会基本条例で、政策形成サイクルの主要3ツールとして、市民との意見交換会（起点）、広報公聴委員会（課題設定）、政策討論会（政策立案）を規定。議会改革について、市民の課題解決を図る議会をめざして、5の基本方向、10の具体的方策、24の具体的検討事項を体系化し、各委員会、事務局一体で取り組んでいる。予算審査決算審査準備会や広報議会モニターの導入など新しい試みも。議会評価には、目標の明確化と評価の物差しが必要と考える。

・可児市議会

4つの政策サイクルが機能している。議会運営サイクルでは、本会議での議長マニフェストで年度が回り、4年ごとの選挙前には議会として次期提言をまとめる。予算決算審査サイクルでは、決算審査でまとめた提言を市長に本会議場で提出。市長からは、予算・決算審査時に提言反映・対応結果報告がある。意見聴取・反映サイクルでは、議会報告会や地域懇談会等の住民意見を基に政策提言し、その対応結果を住民にフィードバックする。その他、若い世代との交流サイクルもあり、模擬投票、高校生議会などを行っている。

・大津市議会

二元代表制の一翼として政策サイクルを回すため、議会ミッションロードマップ（実行計画）をもつ。現議員任期以上の長期計画で、具体的内容と実行時期を任期当初に明示し、評価スキームも組み込む。これまでに「いじめ防止条例」や「災害等対策基本条例」等の制定、「議会 BCP」の策定、「議決事件」「専決処分」の拡大等、数々の実績を上げている。三大学とのパートナーシップ協定でその知見を活かす。

*パネル討論（発言市名略）

- ・総合計画を意識した議会改革に重点を置いている。進捗管理をめざす。
- ・復興事業で財政規模が巨大に。地域を議会で回って意見を聞いているが、行政に伝えることを議決したい。
- ・基本条例はない。BCP、政治倫理、市民の声吸い上げに取り組んでいる。
- ・議長を保守でたらいまわしの中で当選した。立候補制にもって行きたい。
- ・「広聴→行政評価・所管事務調査→政策提言」のサイクルを回している。議会報告会は、テーマ決め、委員会ごとに分かれ、自治会等の協力得て実施している。
- ・議長選挙でマニフェスト発表。②：6：2の②が固まって、6を引き付ける作戦を。事務局のアイデアで市民委員を入れた。
- ・合意形成力を。ピンチをチャンスに。大学との連携でマニフェスト大賞をもらい気をよくした。
- ・みんなでできること、委員会でできることを積み上げる。ディベートではまともでない。一般質問から所管事務調査へ。
- ・住民意見から年間テーマを決める。議会基本条例は、見直し、市民参加、若者の声が必要。

5. 感想

昨年につき2回目のフォーラム参加である。グレードが上がって、議会の政策サイクルができていることを前提とした「評価」へと移り、議会としての政策提案もできない豊明市議会の一員としては、やや現実離れの感があった。

しかし、先進議会の報告には刺激を受ける。議決したら議会に説明責任があるとの認識のもと、付帯決議や予算修正を議会として主体的に行う当事者意識の高さなどには感心させられた。

大学と提携し、学識者の意見や権威の力を借りて、議員全体の啓発をしながら改革を進めることも有効と気づかされた。

いずれにしても、議会改革には根気と作戦が必要と思う。